

令和6年度

こども園における自己評価

八尾市立西郡そよかぜこども園

4: 十分達成している 3: ほぼ達成している 2: 検討を要する 1: 改善を要する

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・ 目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	・ 昨年度、インクルーシブ教育・保育を職員間(チーム西郡)で共通理解しながら、一人ひとりの育ちを丁寧に支えてきたことで、子どもたちの育ちあいが見られた。 ・ 今年度は研究園としてインクルーシブ教育・保育の学びを深めながら、子どもも保育者も保護者も、みんなが自分らしく輝き育ちあえるように研究テーマを掲げた。
	・ 目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・ 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・ 目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・ 指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	・ 子ども一人ひとりの心情面(養護)を大切に、自ら好きな遊びを見つけ心地よく過ごすことや発達に応じた育ちあいを意識し、前月の子どもの姿をもとに、一人ひとりの発達に応じた指導計画を作成している。 ・ 子どもの主体的な遊びをもとに、ねらいに沿った運動会や生活発表会などを計画し、子ども一人ひとりが楽しめる取り組みを実践している。 ・ 主体性を大切にしながら生活習慣も身につくように“ゆるやかな担当制”を改善し、一人ひとり丁寧に対応している。今後も保護者と共に生活習慣の自立を目指したい。 ・ サポート児の環境整備・援助を丁寧に行いつつ、園児一人ひとりの個性を大切にしていける職員集団であるようにインクルーシブ教育・保育を意識した日々の語り合いを大切にしてきたことで同僚性が高まった。 ・ 子どもの人権に十分配慮し、心豊かに育ちあえるよう日々子ども同士の対話に注視している。心動く瞬間を見逃さないよう、職員間の連携を大切にしている。
	・ 毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・ 月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	
	・ 1日の流れ(ディリープログラム等)は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	
	・ 行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・ 自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	
	・ 子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・ 子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・ 同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	
	・ 素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・ 保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
	・ 子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4	

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	・栄養士の食育指導や農園での栽培活動を通して、楽しみながら食に興味・関心をもち、苦手な物も食べてみようとする姿が見られるようになった。
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	・避難訓練では様々な内容や時間を想定し、毎月の危機管理の中で議論を重ね、子どもたちの命を最優先にした訓練を実施している。
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	・看護師の保健指導を通して、学んだことを実践し自分の体を大切にしようとする心が育まれている。
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	・4・5歳児に生命の授業を実施した。妊婦職員の胎児の心音や友だちの心音を聞いたり、赤ちゃん人形を抱っこしたりと様々な体験を通して生まれてきた喜びを感じ合うことができた。
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員 の 資 質 向 上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	4	・研究園として保育を公開し、八尾市内の就学前施設や小・中学校の教員も参加の中、子どもの姿を多面的に見取りながら、研究テーマに迫る話し合いを展開している。参加者と共に保育を分析することや助言者である教授にも具体的な指導助言をいただくことで、保育者自身もめざす保育が明確になり、学年間で話し合う機会が増え、同僚性がさらに高まり、保育者一人ひとりの質の向上にもつながっている。
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	・研究テーマに迫る保育を職員一人ひとりが意識し、肯定的に子どもの姿を捉え、そよかぜのような心もちで一人ひとりの発達に合わせた保育をするために、会議の内容を改善し、学び合いに努めてきた。
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	4	・学習会では人権教育・保育、インクルーシブ教育・保育など全職員が参加し学び合うことができている。
職員 運 営 管 理 ・ 職 員 の 運 営	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	・主幹保育教諭を中心に報連相が丁寧に行われている。
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	・今年度は保育の質の向上をめざし、会議の回数や内容の見直しを行い実践した。時間の捻出には課題は残ったが、内容的には職員のニーズにあったものだった。今後も検討を重ねながら、会議の充実に図りたい。
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか	4	
守 秘 義 務 の 遵 守	・乳幼児や保護者に関する個人情報情報を適正に取り扱っているか	4	・公文書收受、発送、処理等は担当、管理職で必ず2重チェックを行い適切に行っている。
	・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目		内容	評価	備考欄
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	・近隣こども園・小学校・中学校・八尾北高校の交流では、双方で事前に交流の計画・ねらいをもったことで、互いに実りある交流ができた。また、2月には中学校の校庭をお借りし、風揚げを楽しみ5歳児が試行錯誤しながら風をとばすことを楽しめた。
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	4	・八尾北高校へ担当主幹が出向き、生徒たちに乳幼児理解につながるよう出前授業を実施した。
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互恵性のある交流になるように工夫しているか。	4	・中学校や農園でとれた野菜や果物を通して、育てた方から直接話を聞くことで、子どもたちの興味・関心に繋がり、種を植え育てるといった姿が見られた。
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	4	・自園の公開保育に小・中学校の職員に参加してもらうことで意見をいただき、互いの学びとなった。
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4	
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	4	
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4	
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	・子育ての悩みには日頃から担任が寄り添い、保護者と共に子どもたちの健やかな育ちのために連携をしている。また子育て支援コーディネーターを活用し、保護者の悩みにも丁寧に寄り添っている。
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4	・参加したくなるような学級懇談会をめざし、保護者同士もつながり合えるような内容の工夫に努めている。
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4	
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4	
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	3	・毎月、地域の新聞にも園の取り組みを一部掲載してもらっている。
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実役に役立てているか	4	・毎年開催しているポートフォリオ展に近隣の関係諸機関の方にお越しいただき、自園の教育・保育に興味・関心をもっていただけたように思う。これからも自園の教育・保育内容を地域に丁寧に発信していきたい。
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	3	・関係諸機関に自己評価を開示し、ご意見をいただきながら次年度に活かしていきたい。
		・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	3	・行事後には保護者からアンケートをとり、次年度に活かしていけるように毎回丁寧に直し、次年度にはできるだけ反映できるように努力している。
施設・設備		・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4	・施設の安全点検は職員・看護師・園長で月1回それぞれ目で丁寧に実施している。
		・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4	・毎月1回様々な内容・時間で避難訓練を実施し、毎回危機管理会議の中で振り返り、職員一人ひとりが危機意識をもって実施できている。
		・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4	
		・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	4	
経理出納		・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4	・事務員・管理職の2重チェックで丁寧に実施している。

成果

- ・研究園1年目として、子どもを中心に語り合うことを大切にしてきたことで研究テーマに向かい全職員が同じ方向を意識するために保育の実践につながった。
- ・インクルーシブ教育・保育を進める中で、支援児や配慮児だけでなく、一人ひとりがクラスの中で自分のよさを発揮できるように“チーム西郡”で一丸となり、子どもたちの育ちを支え見守りながら、保育者同士も育ちあっている。
- ・保育者の言葉がけやかかわり方から、肯定的に子どもを見取ろうとする意識が高まり、一人ひとりの育ちのスモールステップが積み重なっていることを実感できた。
- ・チームで対応し、支え合える体制づくりと聞きやすい雰囲気ができていることで、一人で悩まず、多様な意見から保育内容の幅が広がった。

・地域コーディネーターを中心に近隣のこども園との交流や小・中学校、高校、老人センター等々、様々な関係諸機関と互いにねらいをもち、実りある交流をすることができた。交流をすることでたくさんの人の前でも友だちと一緒に発表することの喜びを感じたり、愛される喜びを感じたりしながら、心が温くなる交流がたくさんできた。また、保育の中で子どもたちが不思議に感じたことを、中学校や農園に質問に行くなど、地域を巻き込みながら保育の充実を図ることができた。保護者においても子どもたちが疑問に思ったことを宿題として家族で相談し考え合うきっかけをつくったことや、ポートフォリオでわかりやすく教育・保育を発信したことで、子どもの成長を担任と共に喜び合える関係になり、教育・保育の理解につながりつつある。

課題

- ・職員間の話し合う時間の検出に課題が残る。
- ・教育・保育の発信の工夫。
- ・インクルーシブ教育・保育の視点を全職員の共通認識にする。
- ・『育ちあい』『認め合う』子ども、保育者の姿などの可視化。

改善策

- ・担任保育者たちの意見を取り入れながら、フォローに入る時間を工夫する。
- ・ホームページの充実や配布文書、ポートフォリオを通して、事例をもとに教育・保育の内容を発信する。
- ・園内研や事例研、学習会を通して、インクルーシブ教育・保育について職員間で学び合うための計画をたてる。
- ・ダイアリーや園内研究会、事例研究会での可視化を検討していく。